

# 馬をめぐる情勢

## 生産局畜産部畜産振興課

平成29年11月

農林水産省

# 目次

1. 馬産をめぐる情勢	
（1）我が国の馬の飼養頭数の推移	1
（2）農用馬（重種馬）の飼養状況	2
（3）競走用馬（軽種馬）の飼養状況	3
（4）乗用馬の飼養状況	4
（5）日本在来馬の飼養状況	5
（6）登録頭数の推移	6
（7）馬肉関係	7
2. 改良をめぐる情勢	
農用馬（重種馬）の繁殖成績の現状	8

# 1. 馬産をめぐる情勢

## (1) 我が国の馬の飼養頭数の推移

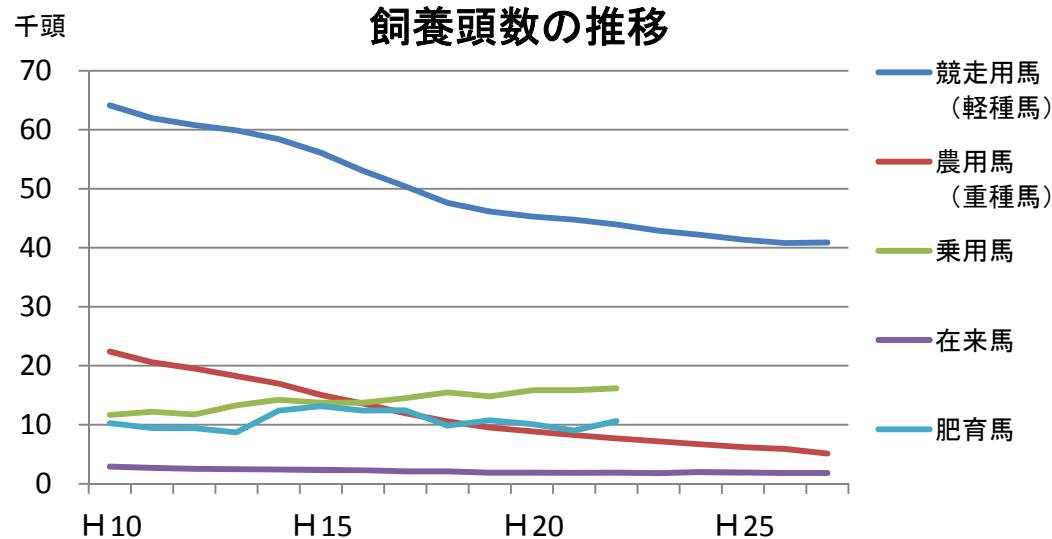
- 総飼養頭数は、減少傾向で推移、平成27年で約69,000頭程度。
- 競走用馬（軽種馬）・農用馬（重種馬）・小格馬の飼養頭数は、減少傾向で推移。
- 乗用馬の飼養頭数は、増加傾向で推移。
- 在来馬・肥育馬の飼養頭数は、近年ほぼ横ばいで推移。

(単位:頭)

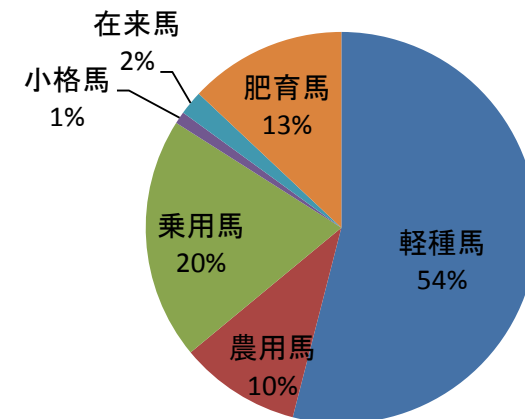
年次	競走用馬 (軽種馬)	農用馬 (重種馬)	乗用馬	小格馬	在来馬	肥育馬	合計
平成5年	72,779	28,378	9,797	—	3,361	6,778	121,093
10年	64,120	22,412	11,646	—	2,892	10,260	111,330
15年	56,088	15,057	13,755	1,610	2,301	13,136	101,947
20年	45,298	8,888	15,829	1,178	1,860	10,098	83,151
22年	43,954	7,716	16,147	1,119	1,857	10,628	81,421
25年	41,368	6,208		624	1,879		74,302
27年	40,866	5,105		669	1,817		69,041

資料：競走用馬（軽種馬）：「軽種馬統計」（（公財）ジャパン・スタッドブック・インターナショナル（公社）日本軽種馬協会）

農用馬（重種馬）・乗用馬の一部・小格馬・在来馬：（公社）日本馬事協会調べ、乗用馬・肥育馬：（公社）中央畜産会調べ



【参考】馬頭数構成比(平成22年)



## (2) 農用馬（重種馬）の飼養状況

- 飼養頭数は減少傾向で推移し、平成27年では5,105頭（平成20年比で約4,000頭減少）。
- 内国産は、北海道で約90%を生産。

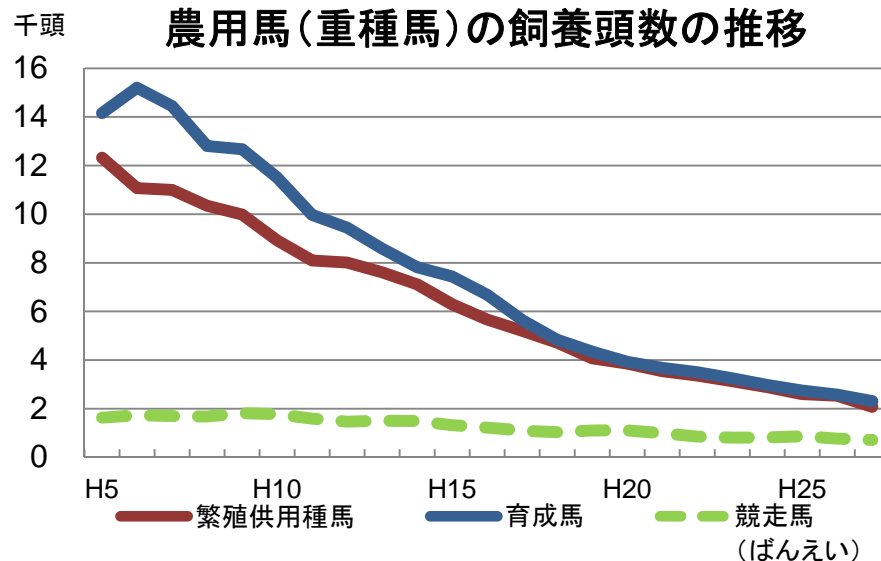
(単位:頭)

年次	繁殖供用種馬		育成馬		競走馬 (ばんえい)	国内合計	輸入 繁殖用
	種雄馬	種付雌馬	当歳馬	1歳馬			
平成5年	546	11,780	7,479	6,679	1,633	28,117	0
10年	402	8,522	5,240	6,276	1,772	22,212	4
15年	397	5,895	3,730	3,711	1,324	15,057	0
20年	246	3,607	1,890	2,040	1,105	8,888	0
25年	232	2,367	1,378	1,364	867	6,208	0
27年	184	1,896	1,101	1,208	716	5,105	0

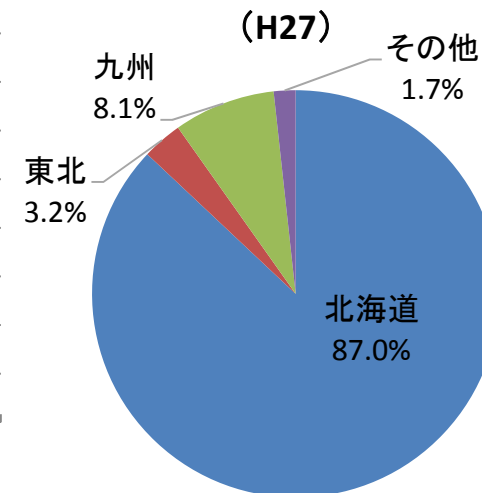
- 資料: 1.繁殖供用種馬、当歳馬は(公社)日本馬事協会調べ  
 2.育成馬の1歳馬は前年の生産頭数(当歳馬)に0.95を乗じた推定頭数  
 3.競走馬は地方競馬全国協会「登録馬主及び登録馬に関する統計資料」  
 4.輸入頭数は畜産振興課調べ。平成23年輸入頭数: 2頭



ペルシュロン種  
 体高が170cm程度、体重  
 800~1,100kgの大型馬。



農用馬(重種馬)の地域別生産割合



ブルトン種  
 体高が160cm程度、体重  
 700~1,000kgの大型馬。  
 幅、後躯が充実。

### (3) 競走用馬（軽種馬）の飼養状況

- 飼養頭数は、減少傾向で推移し、平成27年で約40,900頭（平成20年比で約5,000頭減）。
- 内国産は、ほぼ北海道で生産。〔生産頭数のうち約80%は日高地方で生産〕
- 輸入頭数は、近年減少傾向にあったが、平成27年は繁殖用・競走用が微増。

(単位:頭)

年次	繁殖供用種馬		育成馬		競走馬		国内合計	輸入			
	種雄馬 ①	種付雌馬 ②	当歳馬 ③	1歳 ④	中央競馬 ⑤	地方競馬 ⑥		繁殖用	妊娠馬	競走用	合計
平成5年	767	17,191	12,591	12,230	6,418	23,582	72,779	43	68	215	326
10年	506	13,169	10,241	10,322	6,612	23,270	64,120	82	66	345	493
15年	389	11,499	8,774	8,599	7,802	19,025	56,088	37	96	226	359
20年	284	10,268	7,378	7,155	8,096	12,117	45,298	30	85	157	272
25年	231	9,322	6,843	6,495	7,926	10,551	41,368	34	59	115	208
27年	227	9,404	6,856	6,559	7,890	9,930	40,866	70	37	146	253

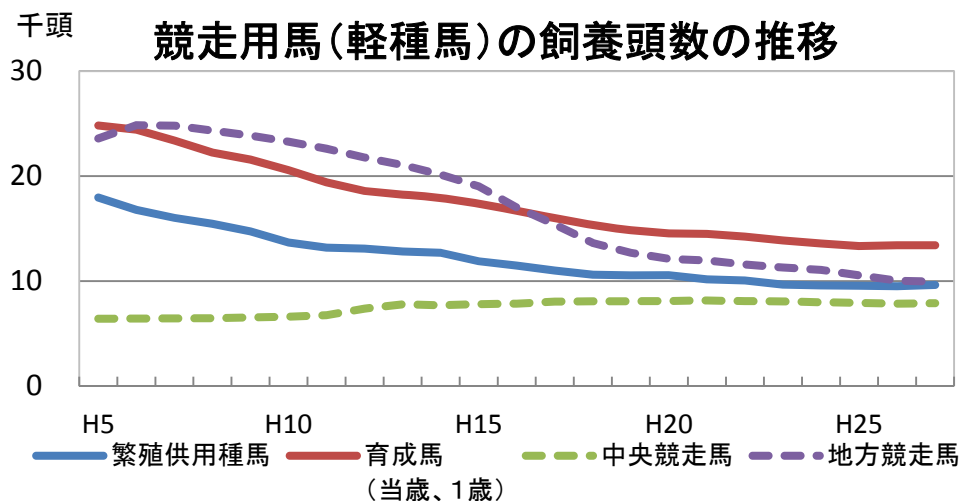
資料:1.①②③は、(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル・(公社)日本軽種馬協会「軽種馬統計」

2.④は、前年の生産頭数(当歳馬)に0.95を乗じた推定頭数

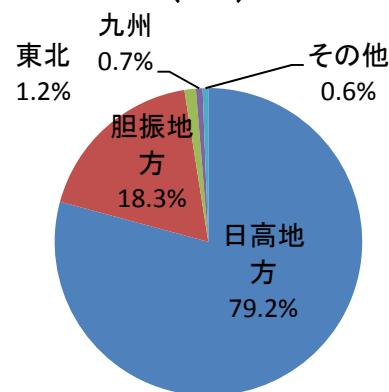
3.⑤は、日本中央競馬会調べで、各年の翌年の1月1日現在の在籍馬頭数

4.⑥は、地方競馬全国協会「登録馬主及び登録馬に関する統計資料」で、各年末現在の馬登録頭数

5.輸入頭数は、(繁殖用)畜産振興課調べ、(競走用・妊娠馬)(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル



競走用馬(軽種馬)の地域別生産頭数(サラ系)割合 (H27)



サラブレッド種  
体高平均160~162cm  
18世紀に競走用としてイギリスで品種改良された軽種馬。乗馬目的にも使用される。

## (4) 乗用馬の飼養状況

- 飼養頭数は増加傾向で推移し、平成22年には約16,000頭（平成17年比で約1,500頭増加）。
- 内国産は、北海道で約65%を生産、次いで岩手県で約20%を占める。
- 輸入頭数は、近年概して増加傾向で推移。

### <乗系馬>

(単位:頭)

年次	繁殖供用種馬		育成馬		総飼養頭数	輸入頭数
	種雄馬	種付雌馬	当歳馬	1歳		
平成5年	13	141	74	59	9,797	170
10年	25	269	101	136	11,646	165
15年	56	348	187	194	13,755	131
20年	32	287	127	135	15,829	197
22年	42	280	139	143	16,147	199
25年	61	298	172	142		204
27年	66	336	169	165		218

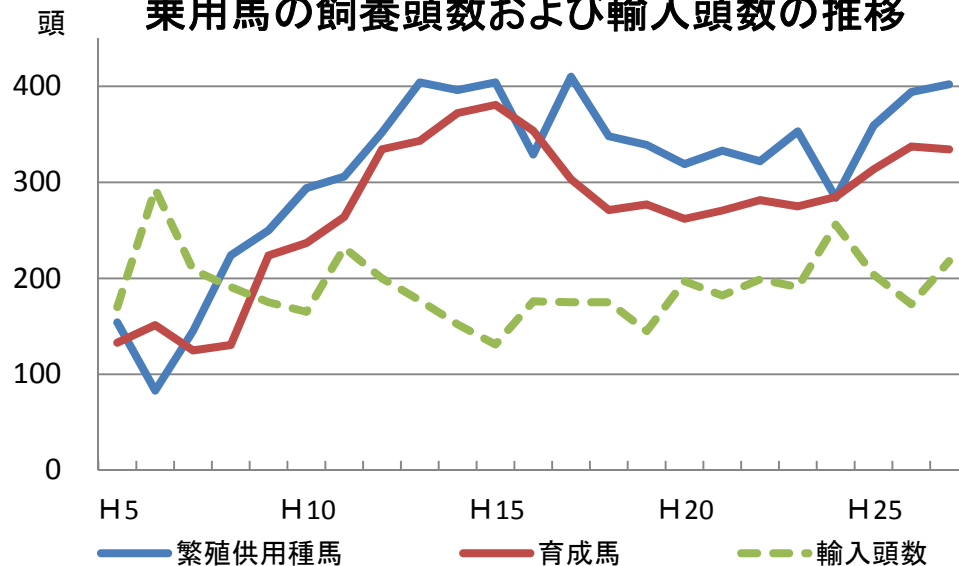
### <小格馬>

(単位:頭)

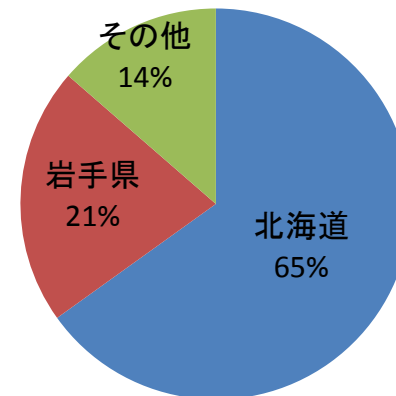
年次	繁殖供用種馬		育成馬		総飼養頭数	輸入頭数
	種雄馬	種付雌馬	当歳馬	1歳馬		
平成5年	121	1,092	433	1,394	-	15
10年	123	875	637	742	-	22
15年	132	694	432	304	1,610	17
20年	88	484	321	285	1,178	17
22年	91	433	294	301	1,119	0
25年	72	221	166	165	624	10
27年	76	279	141	173	669	0

- 資料: 1.繁殖供用種馬、当歳馬、小格馬については(公社)日本馬事協会調べ  
 2.育成馬の1歳馬は、前年の生産頭数(当歳馬)に0.95を乗じた推定頭数  
 3.乗用馬の総飼養頭数は、(公社)中央畜産会「家畜改良関係資料」。H23以降はデータなし。

### 乗用馬の飼養頭数および輸入頭数の推移



### 内国産乗用馬の地域別生産頭数(H27)



中間種:  
 軽種と重種の間のような性質を持ち、軽快さと比較的温厚な性質を持つ。競技用スポーツホースから軽馬車を引く馬まで用途に合わせていろいろな品種がある。

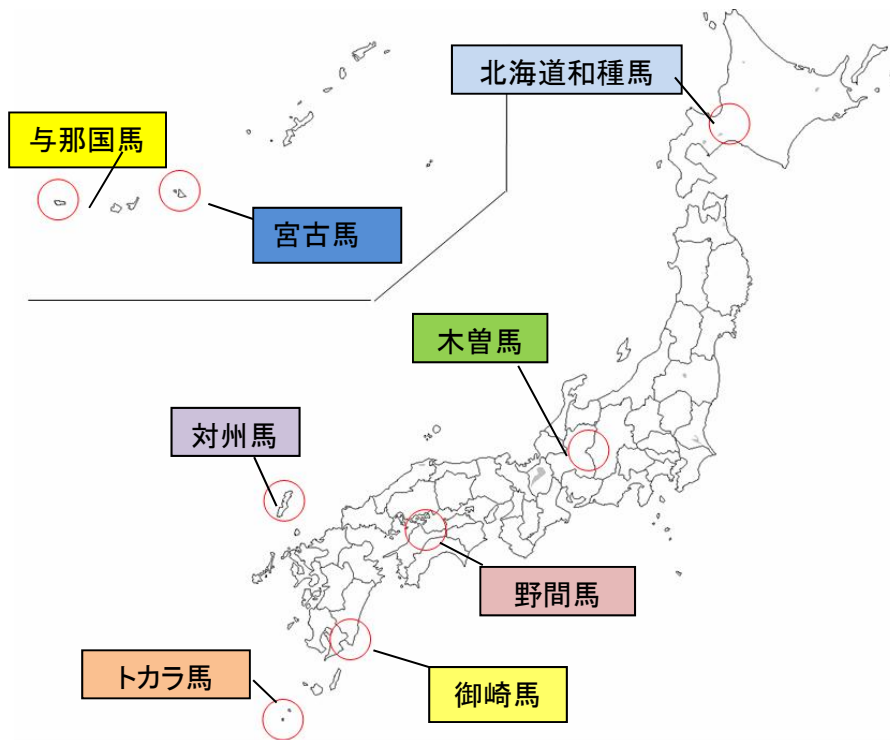
# (5) 日本在来馬の飼養状況

○ 8品種ともほぼ横ばいか微減傾向。

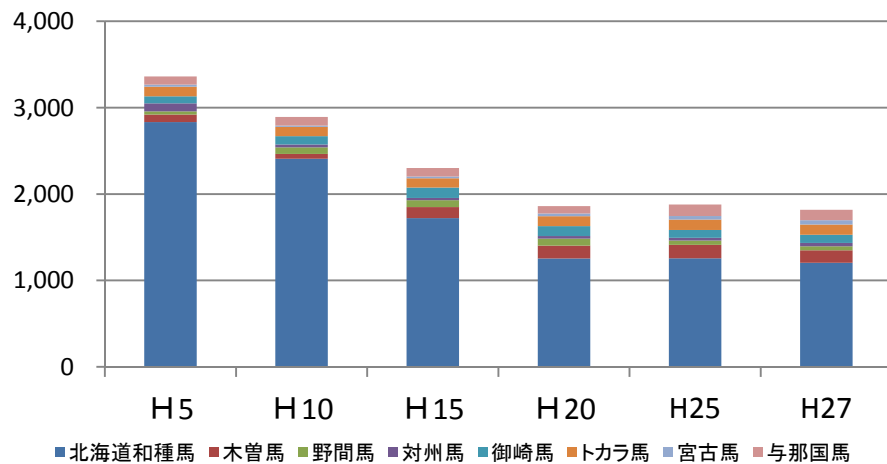
(単位:頭)

	北海道和種	木曾馬	野間馬	対州馬	御崎馬	トカラ馬	宮古馬	与那国馬	計
飼養地域	北海道	長野県 (木曾地域)	愛媛県 (今治市)	長崎県 (対馬)	宮崎県 (都井岬)	鹿児島県 (トカラ列島)	沖縄県 (宮古群島)	沖縄県 (与那国)	
飼養頭数	1,205	143	48	38	95	118	50	120	1,817

資料:(公社)日本馬事協会調べ(H27)(各保存団体からの報告による)。なお、保存地域以外の飼養頭数を除く。



頭 在来馬の飼養頭数の推移



北海道和種馬



宮古馬

## (6) 登録頭数の推移

競走用馬（軽種馬）、農用馬（重種馬）については、飼養頭数の減少等により減少傾向で推移している。

- 競走用馬（軽種馬）  
登録頭数は、飼養頭数の減少に伴い減少し続け、27年度には6,735頭まで減少。
- 農用馬（重種馬）  
登録頭数は、飼養頭数の減少に伴い減少し続け、27年度には1,209頭まで減少。

(単位:頭)

年次	軽種馬（輸入馬を除く）			農用馬		
	血統登録	繁殖登録		血統登録	繁殖登録	
		雄	雌		雄	雌
平成5年	12,628	76	1,686	5,994	77	1,262
10年	10,317	46	1,249	4,392	57	743
15年	8,461	53	1,192	3,097	63	692
20年	7,247	28	1,058	2,116	34	296
25年	6,700	21	964	1,382	24	224
27年	6,735	34	938	1,209	17	197

資料: 競走用馬(軽種馬)は(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、農用馬(重種馬)は、(公社)日本馬事協会が登録団体



## (7) 馬肉関係

- と畜頭数は、減少傾向で推移。輸入量は、輸入馬肉の価格上昇に伴い減少傾向。
- 牛肉ユッケ食中毒等（平成23年）は農用馬の市場価格へも影響。馬肉の需要回復に伴い、平成25年以降は回復。近年は価格が高騰している。
- 馬肉の主産地は九州地方で、全体のほぼ半数を占める。

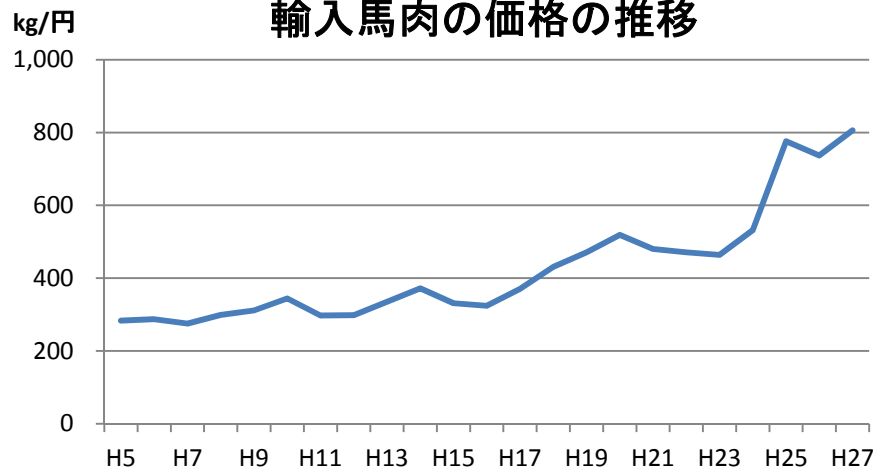
(単位:頭、トン)

年次	と畜頭数	国内生産量	輸入量 (枝肉換算)	輸入頭数 (肥育用)	農用馬 生産頭数
平成5年	17,348	6,314	41,600	1,603	7,479
10年	20,422	7,830	19,894	2,205	5,240
15年	19,039	7,459	10,769	3,729	3,730
20年	15,003	6,053	8,276	3,968	1,890
25年	13,592	5,465	6,828	3,707	1,378
27年	12,466	5,113	7,717	4,277	1,101

資料:1.と畜頭数、国内生産量は農林水産省統計部「畜産物流通統計」

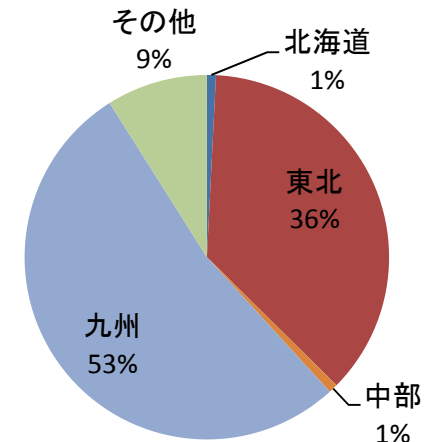
2.輸入量は財務省関税局「日本貿易月表」を枝肉換算(部分肉重量÷0.65)

3.生体の輸入頭数は畜産振興課調べ



資料:財務省「日本貿易月表」

馬肉の地域別生産量割合(H27)

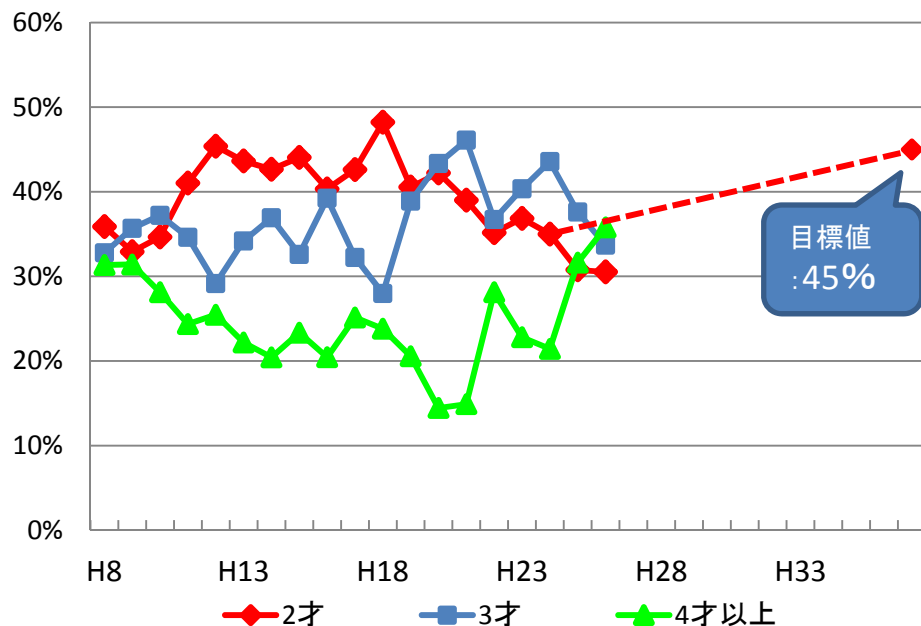


資料:農林水産省統計部「畜産物流通統計」

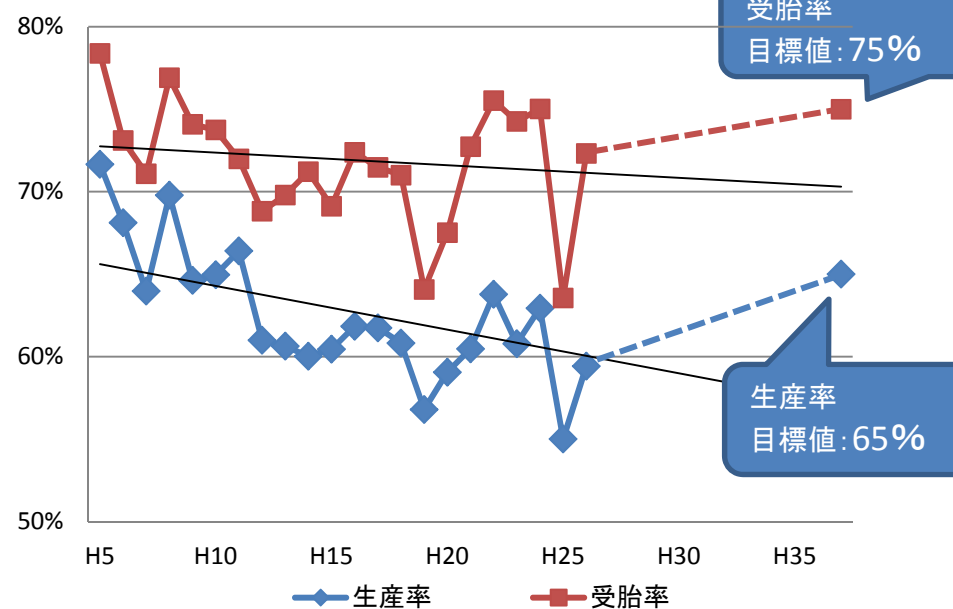
## 2. 改良をめぐる情勢 農用馬（重種馬）の繁殖成績の現状

- 初回種付け年齢は、2才の割合が、近年は減少傾向で推移。
- 受胎率、生産率ともに増減を繰り返している。また、近年は流死産率が高まっている傾向にあり、受胎率と生産率の乖離が大きくなっている。

初回種付け年齢割合の推移



生産率と受胎率の推移



流死産率の推移

種付け年	H5	H10	H15	H20	H25	H26
流死産率	7.7%	11.2%	7.2%	11.4%	12.2%	20.0%